

2007年度の環境会計

荒川化学グループの環境会計は、総合的効果対比型で公表しています。

今後もこの環境会計をツールとして、環境にかかるコスト、効果、物量を把握、管理していきます。

集計について

- (1) 集計期間: 2007年4月1日から2008年3月31日まで
- (2) 集計範囲: 荒川化学グループ
- (3) 集計参考: 環境省「環境会計ガイドライン(2005年度版)」
および(社)日本化学工業協会 日本レスポンシブル・ケア協
議会「化学企業のための環境会計ガイドライン」を参考にし
ました。
- (4) 集計の考え方
・減価償却費は財務会計上の金額。

・投資金額は集計期間の検収ベース金額。

・環境保全活動以外の内容を含んでいる投資・費用は、環境保全に関わる割合を適切に按分して算出。

・研究開発コストは、個々の研究テーマごとに環境保全係数を決め、環境配慮型製品の研究開発に費やした研究開発時間をベースに算出。

・効果は物量および貨幣単位で集計しました。「みなし効果」「偶発的效果」は算定していません。

2007年度実績集計結果

◎環境保全コスト

(単位: 百万円)

分類	主な取り組みの内容	2006年度		2007年度		関連頁
		投資額	費用額	投資額	費用額	
事業エリア内コスト		45	695	47	631	
①公害防止コスト	公害防止設備の導入・維持管理	(33)	(300)	(25)	(271)	P.14
②地球環境保全コスト	省エネ型設備・機器の導入	(3)	(26)	(16)	(34)	P.15
③資源循環コスト	廃棄物減量化・リサイクル、外部委託処理	(9)	(369)	(6)	(326)	P.16
上・下流コスト	包装容器のリサイクル	0	155	0	161	—
管理活動コスト	環境マネジメントシステムの維持	0	50	0	45	P.8
研究開発コスト	環境配慮型製品の研究開発	0	219	0	195	P.11-12
社会活動コスト	地域における環境保全活動	2	20	0	17	P.26
環境損傷コスト	大気汚染負荷量賦課金	0	3	0	4	—
合計		47	1,142	47	1,053	—

◎環境保全効果

効果の内容および 効果を表す指標	環境負荷量		2006年度比 環境負荷増減量
	2006年	2007年	
SOx排出量(t)	17.2	14.7	-2.5
NOx排出量(t)	62.8	33.7	-29.1
水使用量(千m ³)	1,519	1,551	32
COD負荷量(t)	21.9	23.1	1.2
SS負荷量(t)	7.1	7.5	0.4
CO ₂ 排出量(t)	58,845	54,871	-3,974
有価物の売却量(t)	2,463	2,061	-402
廃棄物排出量(t)	5,778	5,583	-195
廃棄物埋立量(t)	607	740	133

◎環境保全対策に伴う経済効果(実質的効果)

(単位: 百万円)

効果の内容	金額	
	2006年	2007年
リサイクルにより得られた収入額	79.3	85.1
省エネルギーによる費用削減	-12.3	44.2
リサイクルに伴う廃棄物処理費用の削減	-25.5	39.0
合計	41.5	168.3

◎集計結果

- (1) 環境保全コストは投資額47百万円、費用額1,053百万円で、投資額は2006年度と同額でしたが、費用は2006年度と比べて減少しています。
- (2) 大きな費用額は、金額順では産業廃棄物関係の費用、包装容器リサイクル費用、水質汚濁防止に関わる費用、研究開発費用などです。
- (3) 主な環境投資としては、排気設備の充実、脱臭設備など大気汚染、悪臭防止に関わる費用、インバータの導入など省エネ機器の強化です。
- (4) 環境保全効果では、CO₂排出量は燃料のガス化などで大幅に削減し、SOx、NOxはコージエネ設備の撤去による運転中止によって減少しました。一方、COD量、SS量は若干増加しました。
- (5) 経済効果では、有価物の数量は400t余り減少しましたが、空缶、鉄クズの売値がさらにアップしリサイクルによる収入が2006年度に比べて増加しました。また、リサイクルの徹底により廃棄物処理費用、省エネ強化によりエネルギー費用がいずれも削減できました。